

## 「青少年国際理解フォーラム」を開催

福島ロータリークラブ

2015年12月6日

福島ロータリークラブでは、青少年が国際理解を深め、親睦を図り、今後の国際交流の懸け橋になることも目的に、「青少年国際理解フォーラム」を開催した。発表者は、福島RCがスポンサーを務める、福島学院大学ローターアクター、福島東稜高校インターアクトクター2名、米山奨学生2名（ベトナム）、福島東稜高校IAC副顧問（イギリス）、東稜高校留学生（セネガル共和国）等の7名。出席者は、発表者の他、RAC・IAC・学校関係者等が32名、RI2530地区県北第一分区ガバナー補佐の鈴木和夫様、分区幹事の安藤正道様、県北第一分区の各クラブの会長幹事、それに主催者である福島RCの会員等26名の総勢65名。

夫々の国の歴史や、地理、文化、教育等について紹介し、国の自慢できることについても発表した。ベトナムから福島大学に留学しているジューフンさんは民族衣装の「アオザイ」を着てベトナムの高校生の制服や、家庭料理について発表、イギリスから来て、IACの副顧問をしているジェームス・ガスキンさんはイギリスがイングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・ケントの4地区で夫々歴史や文化が異なることなどを発表した。セネガル共和国からの留学生のシセ・セリン・ウスマンさん（身長2メートル10センチ）はセネガルの地理、言語、気候、宗教等について説明、有名な「パリ・ダカールラリー」についても紹介した。また、セネガルでは挨拶をととても大事にする習慣があり、通りすがりの知らない人に挨拶しても気持ちの良い答えが返ってくるということには感心しました。

日本人のインターアクターの宍戸久瑠美さんは日本の基礎知識として、地理・気候・人口・方言・伝統行事について説明、また、日本食が文化遺産に選ばれた理由等について説明した。ローターアクターの三澤愛歌さんは、地元の福島県、福島市の紹介をしました。温泉（飯坂温泉・土湯温泉・高湯温泉）の豊富なこと、吾妻小富士など自然豊かな山、花見山公園、お祭り（信夫三山暁祭り・わらじ祭り・飯坂けんか祭り・稲荷神社例大祭）など福島市の魅力についてアピールした。

全員の発表後、参加者全員での質疑応答を行った。最後に地区ガバナー補佐の鈴木和夫様から講評して頂き、その後会場を移して、昼食を取りながら懇談し、お互いに理解を深めるとともに、親睦を図った。

福島県では、東日本大震災さらに原発事故の影響で、2011年以降海外か

らの留学生が減少し（2016年から回復傾向にある）、青少年が海外の青少年と  
触れ合う機会が減少している。そこでRAC，IAC，米山奨学生、海外から  
の留学生等が一堂に会し、交流・理解・親睦を深めることは、将来の国際交流  
のために重要なことと考えた。なお、このシンポジウムは地区の復興補助金を  
活用して開催した。次回からは、RAC・IACが主体的に開催して頂くよう  
支援する予定である。

（福島RC会長 幡 研一記）

